

平成 20 年 7 月 10 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 20 年 第 7 回講話

では恒例の質問を致します。

「昨日一日、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

「一週間、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい」

・・・やはりちょっと減りますね。

夜眠る時に嘘をつかなかったかどうかを考えて、今日は失敗したというものがあると、ずっと棘が刺さったような気分が一週間くらい残ります。どうぞ毎晩眠る時に、今日は嘘をつかなかったかと思って寝ることを習慣付けられると良いと思います。

これは論語で言うと「性相近し 習相遠し」です。生まれた時は皆同じだけれども、生活習慣を身に付けることによって、素晴らしい理想的な人間になることも出来るし、付き合いたくないと思うような人にもなっていく。ですから日々の生活習慣が大事という事です。

もう一つお聞きします。

「昨晚眠りに付く瞬間、自分を省みた方は手を挙げて下さい」

・・・かなり増えましたね。有難うございます。

生活習慣として、夜寝る時に「今日は一日良かったな」と思うと、ぐっすり眠れます。尚且つ、眠りに落ちる寸前に「明日は良かったな」と思って眠ると更に良い。それは明日、自分が眠る時に“今日は一日良かったな”と違って眠る自分を想像するという事です。立派な人物になれるかどうかのポイントは、夜眠りに落ちる瞬間だとお考え下さい。

以前、国会議員の橋本聖子さん(元スケート選手)を悟道会で猪瀬常任理事が中心になって太田にお呼びしました。色々と打合せをさせて戴いた時に、ご本人が、

「スケートの練習をする時には、イメージ力が大事です。本番で滑る前に、頭の中に実際に滑っている自分の手の振り方、身体の使い方・・・を描いて、最後は、気持ちよく何秒でゴールに飛び込んだという事をイメージするのです」と言っておられました。しかも想像したタイムと現実のタイムは、ほとんど一致するのだそうです。ほとんど一致すると、

練習成果が上がったと自分でも感じられるそうです。ですからイメージ力は大事だと思います。

大事だと思うことについては、事前に準備して想像力を働かせて、シミュレーションをした上で準備万端で出かけると、かなり良い結果が出ると思います。

では今日のテーマに入ります。

「子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず。」

為政第二 通 20 です。

論語を読む上で、色々な先生方がこう言われます。

若い時は若い時なりに、年がいつてきたらその年なりに、最後に死ぬ寸前でも論語を読みたい。なぜならば論語は、その年代その年代で味わいがまるで違う本である。その方がどれだけ年輪を積み重ねてきたか、どれだけ自分なりの思いを深める事が出来たか。思いを深めた事によって論語の味わい方が変わる。だから論語は手放せない。ですから、皆様が学んでおられる論語は非常に良いものだと実感します。

これを読むと皆さんは個人を考えるとします。大体の方は、それで終わってしまいます。

個人の一生を考えたら、次は会社の一生を考えると良いでしょう。自分が所属している組織がどういう一生を過すのか考えて、自分がどの位置にいるかを考える。その次に、国家の一生を考えるとという視点が必要だろうと思います。例えば色々な政権、資本主義や共産主義といった視点で国家の一生を考える。更に、その国家が所属している文明の一生・歴史を考える。文明がどのように誕生してどのように発展し、衰退していくか。大きな話になりますが、更に人類の一生を考えるべきではないかと思えます。そして最後は地球でしょうか・・・そこまで視点を広げて考えられたら素晴らしい。

個人の一生は大体 100 年と考えれば良いでしょうし、所属している組織体は 100 年以上生きることが多いですね。文明については、文明法則史学で 800 年周期と言われてますから、そのくらいの大きなスパンで考えると良いでしょう。人類、地球については分かりません。地球の気候が定期的に変動し、その結果人類が消滅し、又次へ、という流れがある事はよく言われます。それがどこまで納得できるかは、どうぞご自分でお調べ下さい。

私が申し上げたい事は、ものを見る視点をもう少し視野を広く、曲面を広くする習慣をつけると良いということです。

洞爺湖サミットが終わりました。お茶の水の駅を降りると、ずっと検問をしていました。色々な所に検問所を作っていました。テロが東京都内で起きる可能性があるということですから、必要なことだとは思いますが、ただ、何でしなければならないのでしょうか？ 洞爺湖サミットは成功したのでしょうか？

皆さんにお聞きします。

「洞爺湖サミットが開催された方が良かったと思う方はどれくらいおられますか？」

・・・ほとんどの人が、そう思われるんですね。

「開催しない方が良かったと思う方は、いらっしゃいますか？」

・・・お二人おられますね。

お二人の意見をお聞きしますと、確かに私もその通りだと思えます。曖昧模糊、玉虫色という評価はあります。しかしやらないよりは、やった方が少しは良かったかのではないかと、問題点が浮き彫りになった事は良かったと思っています。

新興国の方が言った、「投機マネー・原油価格の上昇・バイオ燃料等は、あなた方の問題ではないか・・・」という問いに対して、主要8カ国は答えられませんでした。問題点を浮き彫りにしただけで終わったのです。今回のサミットで感じたことは、世界は本当に危機に瀕しているのだという事です。今、死ぬか生きるかの所に来たのだと現実に自分自身に突きつけられないと人類は結束できない、生き延びることができないということが露呈した集まりだったと思います。

例えば新型インフルエンザです。

先日、産経新聞に石原東京都知事が記事を書いていました。

「日本の政府は甘い。日本は3200万人の人が感染し、64万人の人が死ぬと厚生労働省は発表しているけれども、これは甘い。先進諸国は感染者の20%が死ぬと予測して対応を練っているではないか・・・」という投稿でした。

その後私は、日本国際貿易促進協会主催の「新型インフルエンザ対策セミナー」に参加して、国立感染症研究所研究員の岡田晴恵さんという方の講演を聞きました。その方の発表で、研究所の中で出された新しい論文について言われました。東京都で新型インフルエンザが発生した場合、致死率は66%を超えるという内容でした。しかも10代20代は、八割がた死ぬであろうとも言われていました。

これは<知識・見識・胆識>の知識の部類です。出来る限り、自分自身の役に立つ知識を身に付けると良いと思います。そうするとその結果、こうすれば良いという見識が生ま

れ、実行力が生まれてきます。

ちなみにその後、経団連会長の会社の関係者が、「夏ごろには新型インフルエンザに対するマスク、消毒液等の備蓄が2.5か月分という発表をするもようである」と言っておられました。岡田春恵先生の話でも、2週間分は備蓄して下さいということでしたが、「2週間という数字は、あくまでもそういう考え方を植えつける為に言っているので、その知識が浸透したら、1ヶ月、2ヶ月、できれば2ヵ月半の備蓄が必要です。こういう知識のワクチンを打たなければ、なかなか生き残れません」と話されていました。

もう少し新型インフルエンザについて申します。

7月6日の日経新聞に「新型インフルエンザが発生した場合どう対応するか、計画を立てマニュアルを作成しているのは、全体の病院の3割止まりである」という記事がありました。5月から6月にかけての調査で、ベッド数200床以上で2000の病院に対して行ったアンケートで、回答率は27.5%です。この数字だけにとらわれてはいけません。どれくらいの有効回答率があったかを見定めた上で、自分なりに咀嚼する必要があると思います。

新型インフルエンザについて、ワクチンが三つあるそうです。一つは知識のワクチン、次はプレパンデミックワクチン、三つ目はパンデミックワクチンです。私たちが必要なのは、知識のワクチンです。もし新型インフルエンザが起きたらどうすべきかという知識の獲得・啓蒙活動は必要だと思えます。どうぞ知識のワクチンを自分で調べて、自分で打たないといけないので、是非進めて戴きたいと思えます。

もう一つ、日経新聞で気になった記事を申します。

7月5日の内閣府の5月の消費動向調査の記事です。60歳以上のお年寄りに聞いていました。今後の暮らし向きは悪化すると答えた方が60%だそうです。今年1月の調査時の53%から増えたという事です。当たり前ですね。以前から私は、「これからの世の中は物の値段がどんどん上がり、給料は横ばい、もしくはダウンする」と言っていました。それは安岡干支学を元に話をしていました。

政府が今頃こんな事を言うのはおかしいと思っています。「今年は癒着・汚職で、政治家や官僚の首がどんどん飛ぶ」という事を以前申しました。今年はそれが更に鼠算的に広がって、収集がつかない所まで行くのではないか・・・去年の暮れは確か、そんな台詞を言ったと思います。収集がつかない所に今、だんだん入ってきているという実感があります。

現実に、スターバックスがアメリカで5%にあたる600店舗を閉鎖するという報道がありました。原油高の影響があるのでしょう。これは単なる先駆けだと思います。これから

企業の世界では、軒並み閉鎖・縮小・統合が広がると思います。政府はぐずぐずですから、どうしようもないでしょうね。政治家も舌が何枚もある人ばかりで信用できませんし、官僚も癒着や汚職ばかりが目につきます。

昨年、一昨年にかけて、私はロシア・アルゼンチン・ペルー・トルコといった経済破綻をした国々を歩いて、その原因は何か確かめてきました。自分の目で見て、耳で聞いた結論は、「癒着」の二文字でした。政府・官僚・民間が癒着し、汚職が常態化し、行き着く所まで行ってしまった。経済破綻をした国家の共通点はそこでした。

日本もそうなるに勝るとも劣らぬ所に来ていると思っています。今年は鼠算にもっと酷い事が広がるとしています。ですから食糧の点で言えば、農家に知り合いがあれば、パイプを強くしておいた方が良いでしょう。

悪いことばかりを言ってもよろしくないので、少し希望のある話を致します。

BDF（バイオ・ディーゼル燃料）です。

私が会長をしている群馬郵便通送という会社では、このBDFを購入する事に決めました。電気自動車がまだ一般化されていないので、その前提条件としてバイオディーゼル燃料を取り入れたわけです。てんぷら油の廃油を燃料にしています。これは買うのに1 120円します。郵政公社関係の中で、こういうものを採用したのは初めてのことで、新聞に掲載されました。これは良い動きだと思います。それから太陽光発電にしても、少なくとも、とうもろこしのように人間の食べるものを使った燃料よりはいいなと思います。

又、世の中は値上げばかり言っていますが、見方によっては値下げもあります。前から私は、「今年はインフレとデフレのよじれ現象である」と申し上げていました。インフレはご存知のように、日常生活用品がどんどん値上がりしていますから、どなたも実感しています。しかし物が売れないから値下げせざるを得ないものが沢山あります。現実には下がっているものはマンションや耐久消費財、家具等です。インフレとデフレのよじれは、更に今年は続きます。なぜなら日本政府はまだデフレ脱却宣言はしていません。

ですからご自宅の家庭菜園で良いから、何か作ると良いと思っています。

本日ご紹介する本は木内孝さんの『日本人の見識』です。

その中の一部をコピーしてお配りしています。木内さんは「生きる上で非常に役に立ったものは、父親からのアドバイス、母親からのアドバイスが節目節目に浮かんできた」と言っておられます。両親をはじめ、ここだと思ふ時に非常に参考になる言葉をプレゼントしてくれる方に恵まれたそうです。

木内孝さんが 25 歳の時、カナダのロッキー山脈で大事故を起こして九死に一生を得、
応急手術で顎の骨を針金で固定した 5 日目に退院し、流動食を頼りに旅行の続きに出かけ
る朝、父親から、「ナニヲシテモイイガ、シンデハイカン」という電報が届いて胸にくさ
っと突き刺さったそうです。

木内さんはこの言葉をしっかりと受け止め、その後の人生の中で、会社とはどうあるべ
きか、人類はどうあるべきか・・・といった処に、父親の考え方を広げて解釈をしていっ
たことが書いてあります。

ですから人間が生きていく上で必要だなと思う台詞、良いなと思った台詞は、他の方に
もお伝えすれば良いと思います。

又、この本の中に、<「気づく」か、「気づかぬ」かが勝負の分かれ目だ>と書いてお
られます。一つの例で、EU のことが書いてあります。EU は日本では「欧州連合」と訳
しているけれども、自分で出かけて行って感じることは、連合ではなく同盟だ。「欧州同
盟」であるという解釈をしたと書いてあります。やはり自分で変だ、おかしいと思ったら、
声をあげた方がよいですね。

では、先程素読しました論語を少し解説致します。

ゆうしいわ そ ひと な こうてい かみ おか この もの すくな かみ おか
有子曰く、其の人と為りや孝弟にして、上を犯すことを好む者は鮮し。上を犯すこ
この らん な この もの いま こ あ くんし もと つと
とを好まずして、乱を作すことを好む者は、未だ之れ有らざるなり。君子は本を務む。
もとた みちしょう こうてい もの そ じん な もと
本立ちて道生ず。孝弟なる者は、其れ仁を為すの本か。(学而第一 通2)

素読の基本を申します。

一．姿勢を正して下さい。

背筋をピンと伸ばすと気持ちがいいですね。

一．目線を少し上に向けて下さい。

目標を上に向けると、パワーが出ます。

一．我ながら良い声だと思えるような声を出して下さい。

大きな声を出す事が、良い声とは限りません。小さな声だからと言って悪い声ではあり
ません。ご自分の心の中に染み入るような気持ちの良い声を出して下さい。

この基本を大事にしましょう。

この論語の中に、基本について書いてあります。

君子は本を務む・・・君子は基本を大事にする。

基本がきちんと出来て始めて、自分の進むべき道もはっきり見えてきます。そういう人は人徳者と言われるでしょう。又、自分でも人徳者になりつつある、或いはなったと思う、と解釈して下さい。

子曰く、^{しいわ}学^{まな}びて^{とき}時に^{これ}之^{なら}を^{また}習^{よろこ}う。亦^{とも}説^{えんぼうよ}ば^{きた}し^あから^{またたの}ずや。朋^{ひとし}の^{いきどお}遠^{また}方^{くんし}自^{また}り^{くんし}来^{また}る^{くんし}有^{また}り。亦^{また}楽^{また}し^{また}から^{また}ずや。人^{また}知^{また}ら^{また}ず^{また}して^{また}慍^{また}ら^{また}ず、亦^{また}君^{また}子^{また}な^{また}ら^{また}ず^{また}や。(学而第一 通1)

論語を一節読むたびに、何かイメージが浮かぶとよろしいでしょう。自分なりのイメージです。

例えば、**学^{まな}びて^{とき}時に^{これ}之^{なら}を^{また}習^{よろこ}う**・・・でしたら、小さい頃自分が何か勉強している時の姿が浮かんできても良いですし、私はこれを読んで、鳥が巣立とうとするイメージが浮かんできます。

小さい雛が口を開けて、そこに親鳥が餌を運ぶ。親鳥が羽ばたいて飛んで見せると、大分大きくなった雛がそれを真似て飛ぼうとするけれども飛べない。その繰り返しを重ね、決意してバタバタと空高く飛び始めるシーンです。学ぶというのはこのシーンそのものです。学習とは、「学」は真似ること、「習」は、雛が羽根を広げて飛ぶ真似をする姿です。

朋^{ひとし}の^{いきどお}遠^{また}方^{くんし}自^{また}り^{くんし}来^{また}る^{くんし}有^{また}り・・・この「朋」は、一緒に学んでいる友だちです。一緒に遊ぶ友達は、「友」と書きます。「朋」を大事にするのが良いと思います。一緒に学んだ友だちが、暫らくぶりに訪ねて来てくれた。ああ嬉しいなあ・・・。一緒に学べる朋友は宝物です。これを読んで朋友の顔がポンポンと浮かんで来ると素晴らしいですね。

人^{また}知^{また}ら^{また}ず^{また}して^{また}慍^{また}ら^{また}ず、亦^{また}君^{また}子^{また}な^{また}ら^{また}ず^{また}や・・・自分を君子と考えれば良いのです。君子とは色々な言い方があります。立派な人格者でも良いし、必死になって学んでいる人と解釈しても良いでしょう。自分の事を周りの人が知らなくても、そうそう腹を立たないようにする。そうすればいつの間にか自分の理想とする人に近づいていきます。

これは自分が理想とする人がいるかどうかで、かなり変わります。渋澤栄一さんは孔子のような人間になりたいと思い、それを一生涯目標にし、具体的な手法として論語を活用しました。自分のお手本とする師匠はいるか・・・。いなかったら作れば良いのです。真剣に探せば見つかります。亡くなっていれば心の対話をすればよろしい。自分のお師匠さんを思い出せば良いと思います。

論語は、すべて自分に置き換えてみれば良いのです。自分ならどうだろうか。自分に置

き換えると理解が早まります。同時に自分に置き換えた後、イメージが浮かぶようなら文句ありません。ただ文章を読んでいるだけでは、まだ道半ばです。イメージが浮かんだら合格です。

時間でございますので、本日の申し上げた中で、肝心なところをお話します。

中斎塾はあまり難しい話はしないようにと思っています。出来るだけ身近な話、自分で出来る事に集中してゆきたいと思います。

根幹にあるものは「足るを知る」です。あまりがつつかない、「足るを知る」という考え方を自分の心の中にがっちり根づかせて我がものとして戴いた上で、知識・見識・胆識そして判断力は総合的直観力でゆきたいと考えています。

知識・見識・胆識は、出来る限りの知識を取り入れて、自分ならどうするのか、又、国の命運に見合うものならこうすべきだ、という考え方をはっきりさせて実行してゆく。そういう集まりでありたい。それがこの集まりの中で出来上がっていったら、日本中に「足るを知る」という思想を広げてゆき、そして世界の中で賛同して戴く方と話を共にする。そういう機会をもっともっと作ってゆきたいと思っています。

夜寝る時に「今日は嘘をつかなかったかな？良い日だったかな？」と思って寝るところから始めると、良い人生・良い地域社会・良い日本に繋がっていくと思います。

本日は以上で終了とさせて戴きます。有難うございました。